

# ヨシナカ新聞

2月号

発行所

株式会社ヨシナカ

東京営業所

TEL:03-3555-0796

## 「貴社」と「御社」の使い分け

取引先を訪問したく、担当者とその旨の内容のメールを書いていて、「貴社を訪問したく」と書けばよいのか、「御社を訪問したく」の方が良いのか迷ってしまいました。

調べてみると、基本的には、話し言葉では「御社」、書き言葉では「貴社」と使い分けるのが一般的なのだそうです。会話の中で「貴社」を使うと、「帰社」と聞き違えることがあるので、面接や電話応対など話し言葉では「御社」を使います。手紙やメールの場合、親しい間柄なら「御社」でもいいのですが、一般的なひな型では冒頭に「貴社ますますご清栄のこととお喜び申し上げます」という定型文が使われることが多いため、「貴社」を使うのだそうです。なるほど、手紙では「貴社ますます・・・」

と書いていました。納得です(笑)

それでは、「当社」と「弊社」の使い分けはどうすれば良いのでしょうか？

どちらかといえば、当社よりも弊社という表現の方がよりへりくだった言葉であると考えられています。身内同士(同じ会社同士)ではへりくだる必要が無いので、「当社」と呼び、他の組織や会社の人に自分の会社を説明する場合は「弊社」という表現を使うと良いそうです。

ただし、相手に抗議をする場合など、強硬な立場で臨む際は「当社」と表現すべきだそうです。弊社というのとは文語だから口語ではないという指摘もあるそうですが、厳密には弊社という言葉は文語で登録されているわけではないので、口語で読んでも問題はないそうです。

## ステンレス豆知識

### 析出硬化系ステンレス

一般にステンレスで硬度の高いものを求める場合、SUS420J2等の焼入が可能なマルテンサイト鋼が選択されますが、変形、歪み、寸法変化、焼き割れや残留オーステナイトに起因する経年変化のデメリットが伴います。そんな

問題を払拭し、18-8ステンレスの優れた性能を保持して、低温熱処理によって強度を高める事が出来るのが、SUS630、SUS631等の析出硬化ステンレスで、溶体化熱処理

で過飽和に固溶した析出硬化元素を、「時効硬化」により第2相を微細分散析出することで硬化する為、焼入鋼と比較して低温の熱処理で高硬度化する事が出来ます。

含有成分(%)	C (Max)	Si (Max)	Mn (Max)	P (Max)	S (Max)	Ni	Cr	Cu	Nb
SUS304	0.08	1.00	2.00	0.045	0.030	8.00~10.50	18.00~20.00	-	-
SUS630	0.07	1.00	1.00	0.040	0.030	3.00~5.00	15.00~17.50	3.00~5.00	0.15~0.45

## 歩く事と血流と骨密度

健康の為、住まいから会社まで徒歩通勤をしています。朝はまだまだ冷え込みが厳しい昨今、ネットウオーマーと手袋は欠かせません。それでも歩き始めは手袋の中の手は冷たいのですが、40分くらい歩くと、手はポカポカになっていきます。

これは血流が改善されて、体の温度が高まり、蓄積した血中の老廃物を燃焼したり、不要物の排泄が促進されている証拠なのだそうです。

また、ウォーキングはカカトが地面に着地する衝撃により骨に力が加わる運動で、その刺激に反応して骨をつくる細胞が活発に働き、骨量も増加するのだそうです。

腰から下部の筋肉は全身の約七割であり、その筋肉全体で人の体の四割以上の体温が作られています。このため、腰より下部の筋肉を利用することで、より効率的に筋肉を使うことが出来るそうです。

毎朝の徒歩通勤は正直辛いですが、何とか続けていこうと考えている今日この頃です。

## K社員のフルート奮戦記

### 基本練習開始

そして次のレッスン。S先生が作って下さった基本練習メニューを受け取ります。

まずはロングトーン(息継ぎなしで吹き続ける練習)。やはりこれを練習しないと道は開けないようです。テンポ60で、全音符を四小節連続で吹く練習です。説明するとややこしいので割愛しますが、四つの音をそれぞれ四秒ずつ16秒間吹き続ける練習です。

かすれた音でいくらか長く吹いても全く意味がないので、まずは綺麗な音を出す事から始めます。暫くして太くて安定した音が出たのを確認してロングトーン開始です。しかし、息は続かず12秒くらいすると音は出なくなります。諦めると、

「音は出なくても良いので息は出し続けて下さい」

という先生の鬼のような指示のもと、死にそうになりながら息だけ搾り出します(苦しい)。

## 放射状雲

新聞に写真が欲しいなどと、先日の夕方、住まいの裏にある公園を散策しましたが、既に記事にしたもの以外に真新しいのはなく、駄目だったかと空を見上げたら放射状(つぼい)雲が綺麗だったので遊んでいる子供達をバックに撮りました。

この放射状の雲、実際は平行に並ぶ細長い雲の列なのだそうです。上空では観測者と雲の距離は雲列のどの地点を取ってみてもほとんど同じなので、同じくらいの大さに見えるのですが、地上では観測者に近い雲との距離と遠い雲との距離は大きな差があるので、近い雲は大きく、遠い雲は小さく見える遠近法の原理により放射状に見えるのだそうです。

